

2 具体的取組例

視点1 『情報提示』 P12～P26
例1～例15

視点2 『環境整備』 P27～P37
例16～例26

視点3 『学級集団づくり』 P38～P46
例27～例35

【どの子ども「わかる」「できる」を促すための支援内容一覧表】 P8,9と
合わせてご覧ください。



視点1 『情報提示』

(1)読むこと、書くことを促す

(7)色遣いや文字サイズ等の配慮で、重要事項等が意識でき、見やすく写しやすくする

【学級の様子】

- ・ ノートを整理することが難しい
- ・ 黒板がきちんと写せない
- ・ 黒板が見えにくいという子どもがいる



【工夫のポイント】

◎見やすく、ノートに写しやすい板書計画

* ノートに写すイメージがもてるように、レイアウトをする

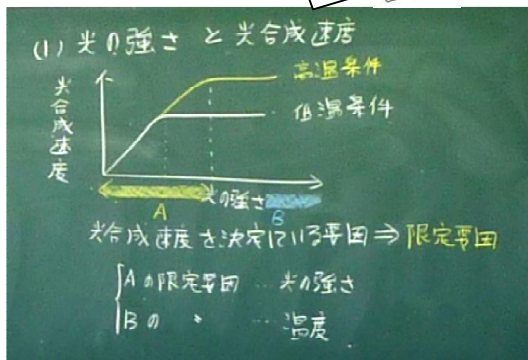
◎全校で板書での文字の色遣いの統一

* 「学習課題は青、まとめは赤、重要な文法や表現は黄色で囲む」とあらかじめ伝えておく

* 子どもがノートに板書を写す際も同じ色を使わせる



「重要事項やポイント箇所はチョークの色で目立っているから見やすいし、わかりやすいね。」



(高等学校)



「このクラスには、赤色が見づらい子どもがいるため赤チョークを使っていません。」

「プリントも重要部分には枠があるので、内容がつかみやすく、集中して授業を受けられるようになったよ。」



(中学校)

(中学校・高等学校の例)

視点1 『情報提示』

(1)読むこと，書くことを促す

(1)難しい漢字や重要事項等に仮名をふるなどで，読みやすくする

【学級の様子】

- ・漢字を読み間違えたり，積極的に読もうとしなかったりする
- ・海外から帰国し，日本語を習得中の子どもが在籍している



【工夫のポイント】

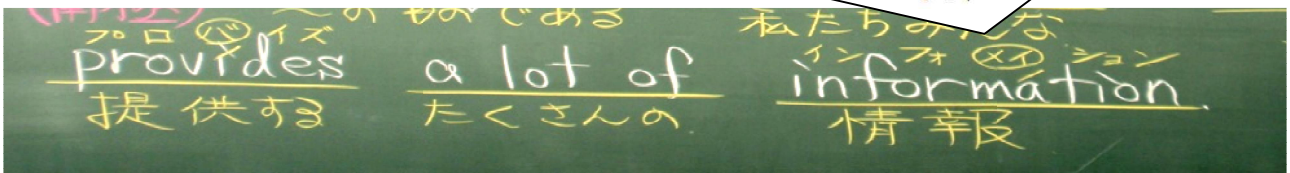


◎読みやすく，わかりやすい板書計画

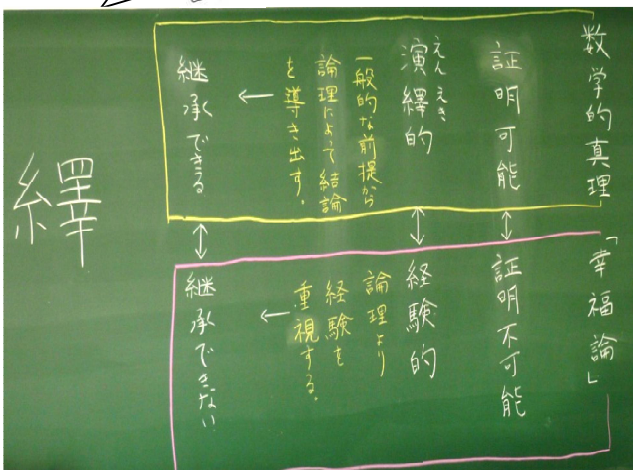
*人名・地名・新出単語などには，読み仮名をふる

*画数の多い漢字などは大きく書き，注意すべき個所を明示する

「難しい単語の発音も，カタカナの読みがあり，アクセントの位置には○があるので後で見てもわかりやすいです。」



「画数の多い文字は，大きく書いて，部首やつくりの意味もわかりやすく説明してくれるので，覚えやすいです。」



2年1組HR資料「あいさつ」について

「日本語を勉強中の母親も，先生の考えや方針がわかりやすいと喜んでいました。」



1. あいさつをすること

号令で動くようなことは嫌いです。

さて，人との付き合いは「あいさつ」に始まり，「あいさつ」で終わります。友達とも「おはよー」「バイバイ」という調子でしょうか。授業でも同様に，授業では次のようにしませんか？ 号令で動かず，自分達の判断で

(高等学校の例)

視点1 『情報提示』

(1)読むこと、書くことを促す

(1)難しい漢字や重要事項等に仮名をふるなどで、読みやすくする

【学級の様子】

- ・ひらがなや漢字を読んだり書いたりすることが難しい子どもがいる
- ・言葉だけの説明では、理解することが難しい子どもがいる



【工夫のポイント】

◎絵と文字、ひらがなと漢字を用いた提示の工夫

- *字が読めない子どもにもわかるように、絵と文字を使い作成する
- *必要に応じて、時計のカードを併せて掲示する
- *言葉にサインや身振りを併せて、わかりやすい言葉で端的に伝える
- *「ひらがなのみの日程」と「漢字入りの日程」の2通り用意する



(小学部)



「時計のカードで時間を確認するよ。」

「明日はスポーツ大会です。お弁当を持ってきてくださいね。」



サインも併せてゆっくり、はっきり



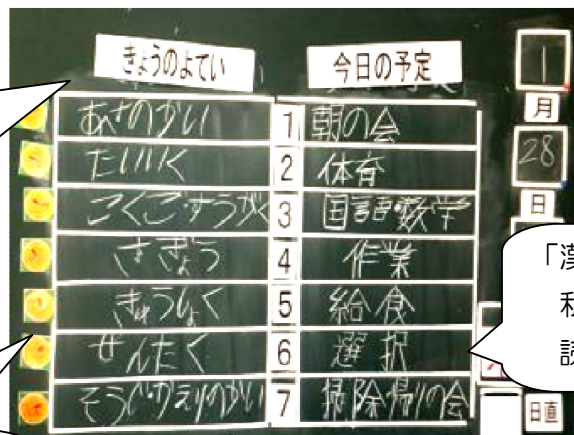
(高等部)

(中学部)

「2通りの予定を横に並べて書いてあるから、すっきりとしていて読みやすいね。」



「これなら、ぼく読めるよ。」



「漢字も読めるので、私はこちらの方が読みやすいな。」

(特別支援学校の例)

視点1 『情報提示』

(1) 読むこと、書くことを促す

(ウ) 文字に指や定規をあてる方法を取り入れるなどで、読む箇所を明確にし、読みやすくする

【学級の様子】

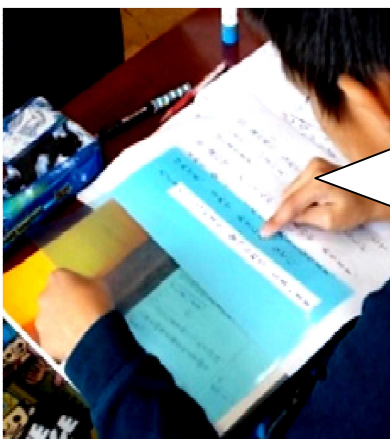
- ・どこを読んでいるのか、わからなくなる
- ・言葉のまとまりで区切って読むことができない



【工夫のポイント】

◎文章に注目させ、読みやすく

- *スリット付きの補助具を用意し、本文と前後の文を区別しやすくする
- *単語を赤色鉛筆で区切り、言葉のまとまりとして意識しやすくする
- *読み始める場所を指して、隣同士で確認する
- *重要な部分をマーカーで着色したり区切ったりして強調する



「色つきのスリットがあるから、読んでいるところを間違えずに読めるよ！」

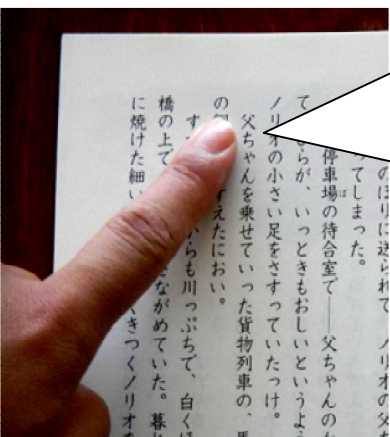
「定規をあてて読むと読みやすくなるよ！」



「大事な言葉にも線を引いて、目立つようにしましょう。」



(中学校)



「隣の人と読み始める部分を指さし、『ここからでいいのかな?』と確認します。」



「ここは大切だから線を引きましょう。」

(小学校)

(小学校・中学校の例)

視点1 『情報提示』

(1) 読むこと、書くことを促す

(I) 書く方向を示したり、マス目や罫幅の広いノートを使用したりするなどで、書きやすくする

【学級の様子】

- ・何をどう書いていいかわからない
- ・書くことが苦手で時間もかかる



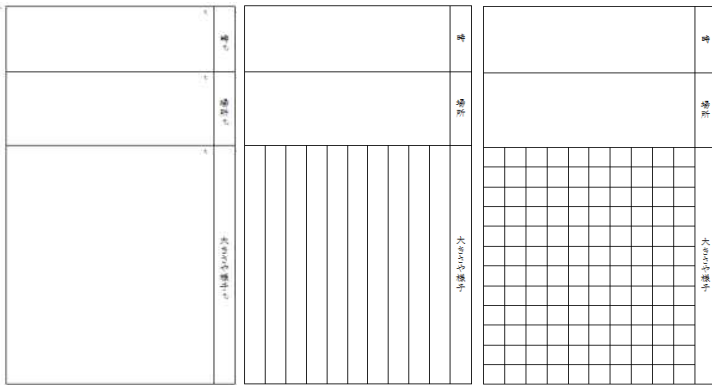
【工夫のポイント】



◎自分の実態にあったワークシートの選択

- * 実態に応じて、罫線があるもの、マス目があるもの、補助線や下書き付きのシートを用意し、自分で選べるようにする
- * 個々の状況に合わせてプリントを用意しておく
 〈無罫 → 罫線(縦・横) → マス目 → 十字リーダーマス目〉
- * シートを活用することで、一人一人の目標の達成を図る

(小学校)



無罫

罫線

マス目



「マス目の数や大きさがいろいろあるんだね！」

「わたしは、マス目があると助かる。」

「マス目があると、文字が書きやすい！字もきれいに書けるよ。」

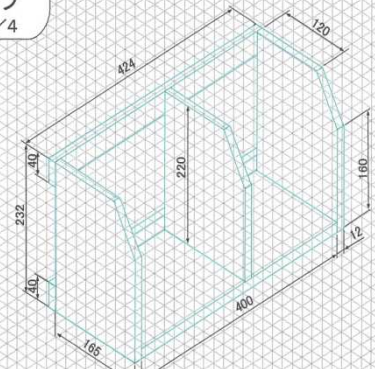
「作図は苦手だけど、補助線入りのシートを使って上手く描けたよ。」

「下書き線があるから、とても助かるんだ。」



(中学校)

設計図見本
Bタイプ
縮尺1/4



補助線と下書き入りの設計図シート



(小学校・中学校の例)

視点1 『情報提示』

(2) 聞くこと，話すことを促す

(ア) ゆっくり，はっきり，端的に平易な言葉で話すなどで，聞き取りやすくする

【学級の様子】

・話を落ち着いて聞くことができない



【工夫のポイント】

◎話を聞く時の環境設定

- * 子どもの顔を見ながら，静かになったら話を始める
- * 子どもの顔を見て話すことで，聞くことを意識できるようにする
- * 静かにするカードを提示する
- * 行動の指示は，音声と視覚(板書)で伝える

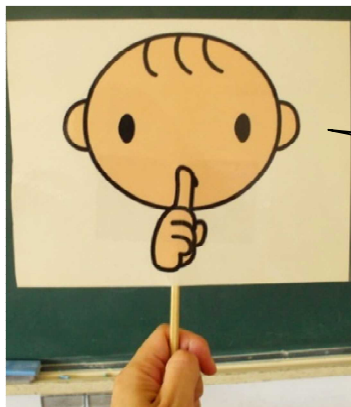


「ここを見て！」

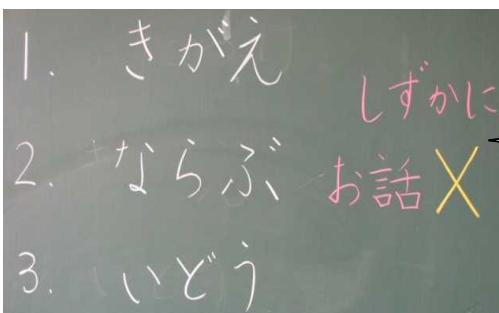
「指示は短く，動作は一つにするとわかりやすい。」



「話をする人を見て，静かに聞かなきゃ。」



「カードの絵を見たら，静かにするという合図でわかりやすいよ。」



「黒板に書いてあると，何をやるか確認しながら動けるよ！とても安心だね。」



(小学校の例)

視点1 『情報提示』

(2) 聞くこと、話すことを促す

(1) 選択肢の提示や教師による補足説明などで、質問に答えやすくする

【学級の様子】

- ・ 考え方の進み具合や流れを把握することが難しい
- ・ 自分の意見を言うことが苦手
- ・ 指名するとすぐに、「わかりません」と答える



【工夫のポイント】

◎ 意見を書いた付箋を使って黒板に掲示

- * 一目で考えがわかるようにする
- * 付箋の字が小さい場合はカメラを使ってテレビに拡大する

◎ 答えやすい方法を提示

- * 時には、教師が反対されそうな意見を示して、子どもに聞く
- * 選択肢を準備しておき、質問する



「付箋が貼ってあり、みんなの考えが一目でわかるようになったよ。」

「先生が、いろいろな意見を示してくれたので、どんどん意見が出てきたよ。」



(中学校)

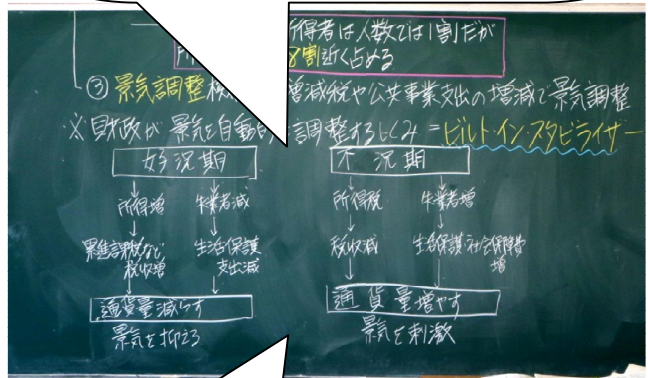


(P49)



「正確な解答は自信がないけれど、どちらかを選べばいいなら、答えやすいよ。」

「発表しやすい雰囲気になってきたよ。」



(高等学校)



「選択肢から選ぶのは、答えやすいようです。指名したら、必ず答えるようになってきました。」

(中学校・高等学校の例)

視点1 『情報提示』

(2) 聞くこと、話すことを促す

(d) 話す手順やキーワード等を提示するなど、話しやすくする

【学級の様子】

- ・自分の考えを発表したり、記述したりすることが苦手
- ・積極的に発言しようとする意識が不足



【工夫のポイント】

◎ 「気持ち」を発表しやすい状況に設定

* 予め「気持ちを表す言葉表」を提示し、一言だけの発表も歓迎する

◎ キーワードから連想する単語と、その単語を含む短文を発表

* 自分の発言が次につながるような仕掛けをする

* 子ども自らが、考える手がかりを作り出す状況を設定する

◎ 話しやすくするために、手順例の提示

* 係などの連絡がしやすいように、連絡メニューを掲示しておく



話す手順例

《全校専門部からの連絡メニュー》

- ① 何の専門部からの連絡か
- ② 一番大きな内容を伝える
- ③ クラスのみんなへへのお願い



「こんなふうに発表しました。」

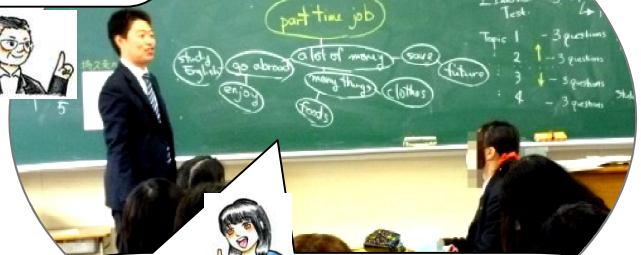
- ① 昨日の全校美化部会で、決まったことを連絡します。
- ② 6月第2週から4週までの2週間、美化コンクールがあります。学年美化部長と副部長が掃除と片づけの点検をします。
- ③ 皆さん、この機会に日頃の掃除を見直して下さい。一位を目指して頑張りましょう。

(中学校)

「『気持ちを表す言葉表』が、発表を助けてくれたよ。」



「キーワードに関する単語を書きます。」



「連想する単語を考えるから、授業に参加しやすいよ。」

(小学校・中学校・高等学校の例)

(小学校)

気持ちを表す言葉

優しい おもいやり おもしろい すばらしい
 うれしい 楽しい ありがたい 美しい
 わかる 共感する 助かる 助ける 気が楽になる
 喜ぶ 心強い 明るい がんばれ
 かんしゃ はげまされる はげみになる

(高等学校)

視点1 『情報提示』

(2) 聞くこと、話すことを促す

(㊦) 話す手順やキーワード等を提示するなど、話しやすくする

【学級の様子】

・ 要求や発表を言葉で話すことが難しい子どもがいる



【工夫のポイント】

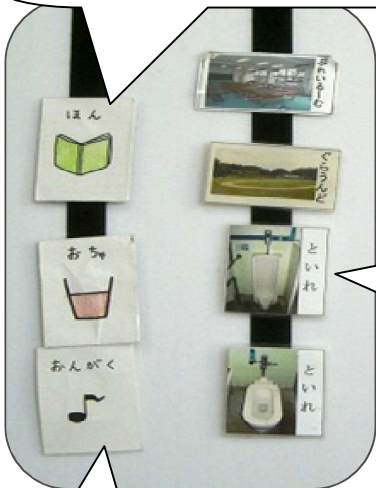
◎ 表出を促すため、写真やカード、サインを活用

* 要求が多い物や場所の写真・絵カードを、要求時に渡せるように壁に貼っておく

* メニューや日付、天気等を発表する時は、カードを指さしたりサインで表現したりする



「本が読みたい時は、『ほんのカード』を渡すよ。」



(小学部)

「写真を見れば献立が言えるよ。」



(小学部)



「5月14日水曜日、天気は晴れです。」

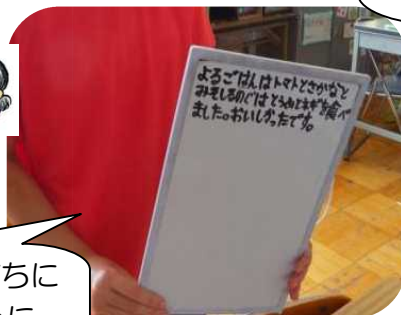
「トイレに行きたい時は『トイレのカード』よ。」



「取り外せるようにホワイトボードなどを使うと、便利です。」
「黒板はいつも整然とするのが基本です。」



「嵐のCDを聴きたい時は『おんがくカード』よ。」



(中学部)

「発表する時は、友だちに読んでもらえるように、持って提示します。」



(特別支援学校の例)

視点1 『情報提示』

(3)理解を促す

(7)具体物や写真、映像等を活用して説明をするなどで、イメージをもちやすくする

【学級の様子】

・物語のイメージをもつことが難しく、どんな場面なのか想像することができない

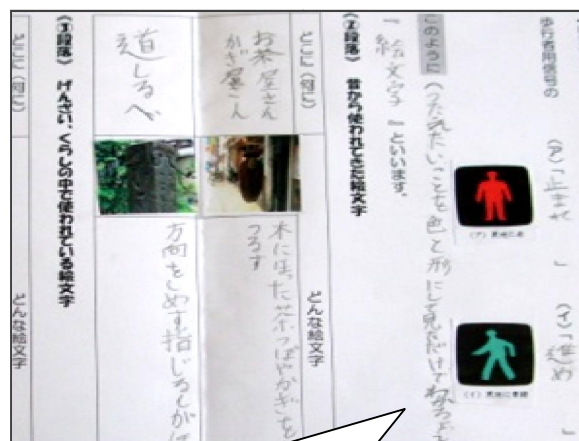


【工夫のポイント】



◎視覚情報を掲示資料や教材に活用

- * 物語の絵本や教科書の挿絵を掲示し、場面の変化をつかむ
- * 物語の流れと登場人物の気持ちの変化を挿絵と比べて掲示
- * ワークシートやノートにも視覚情報を活用



「教科書と同じ写真だからわかりやすい。」
「ワークシートにも同じ写真を貼ってからまとめよう。」



「今日の学習はここです。」

「前の授業のふりかえりができるよ。場面毎の絵もあるから、ごんの気持ちを思い出すのに便利だな。」



指導案 (P50)

(小学校の例)

視点1 『情報提示』

(3)理解を促す

(ア)具体物や写真、映像等を活用して説明をするなどで、イメージをもちやすくする

【学級の様子】

- ・説明を聞くことに集中できない
- ・文字資料の読み取りが苦手の子が多く、繰り返し説明が必要になってしまう

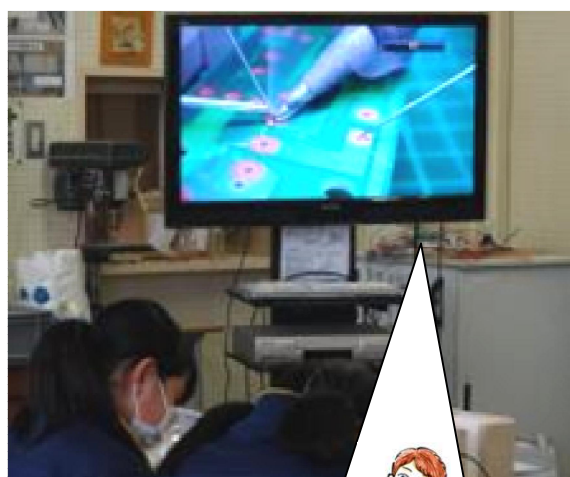


【工夫のポイント】



◎わかりやすい編集、字幕と音声の活用

- *見通しがもてるように、短く編集する
- *映像を使った授業でわかりやすく伝える
- *必要なら何度も繰り返し見られるようにする
- *字幕や音声は端的な表現にする



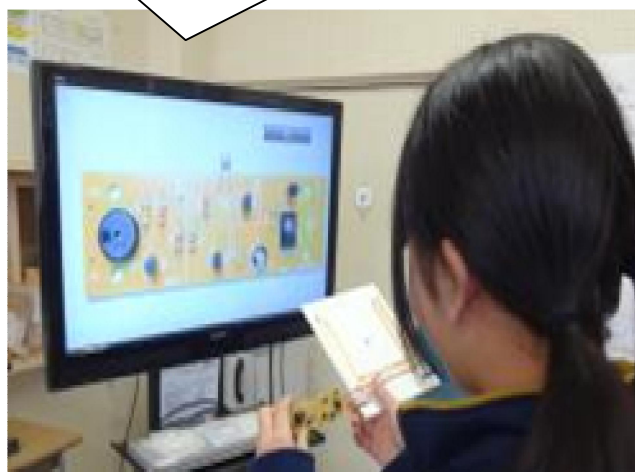
「動画だと作業の細かな部分まで、動きが見えるからよくわかるよ。」
 「繰り返し流れているから、見逃しても安心して作業が進められるね。」

「この『作業の手順』通りに進めれば
いいから、わかりやすいね。」



「作業の順序が連続して見られるって、
見通しがもちやすいね。」

「色や形もきれいでわかりやすい。」



(中学校の例)

視点1 『情報提示』

(3)理解を促す

(1)学習課題に焦点をあてた教材の工夫や課題提示の工夫などで、学習課題を把握しやすくする

【学級の様子】

- ・学習課題がつかめない
- ・指示の内容が理解しづらく、何をしたいのかわからない

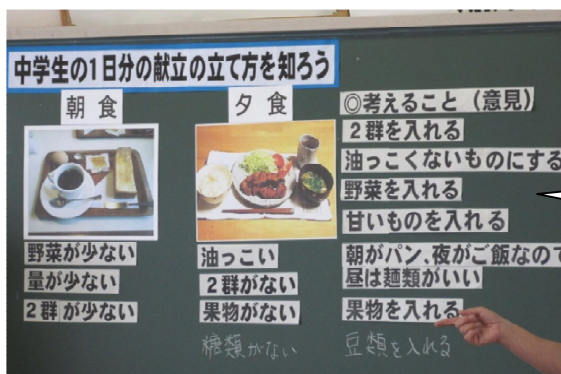


【工夫のポイント】



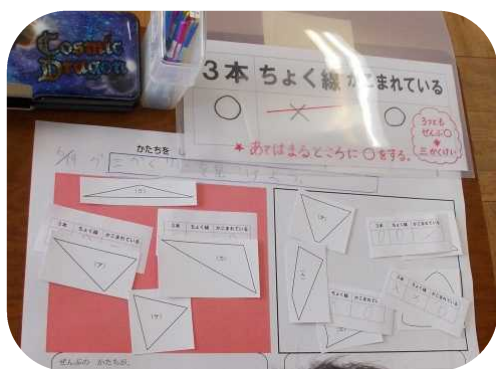
◎活動を支援するためのお助け用具の活用

- *身近な事柄を教材にして、視覚化してわかりやすく説明する
- *直線を確認めるシートや三角形の決まりを確認するチェックカードを用意する



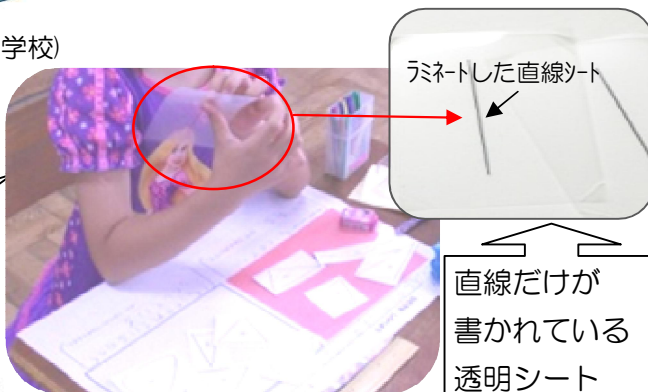
「食べ物の絵があり、考えるポイントも入っていて、わかりやすいね。」

(中学校)



「直線，3本，囲まれている，の項目全てに○印がつかないと三角形ではないから，○印を手がかりに判断できてわかりやすいね。」

(小学校)



「ラミネートした直線シートを使うと，三角形の辺に合わせやすいよ。だから，直線の確認がしやすいね。」



(小学校・中学校の例)

視点1 『情報提示』

(3)理解を促す

(㊦)既習事項やポイント等により考え方のヒントを示すなどで、課題解決に取り組みやすくする

【学級の様子】

- ・前時に学習した内容を思い出せない
- ・指示の内容が理解できにくく、活動時に何をしたらよいかわからない



【工夫のポイント】



◎重要事項は定位置に記入

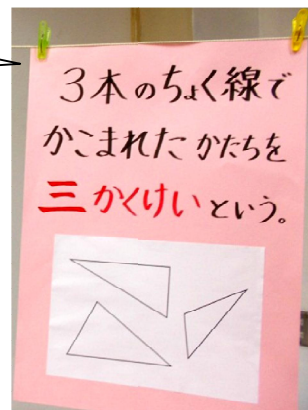
- *その時間に使う公式等を黒板やノートに示す
- *枠で囲み、その授業中は消さず、いつでも確認しやすくする

◎やることや学習のめあてを強調

- *活動の仕方を、活動前に見本として示す

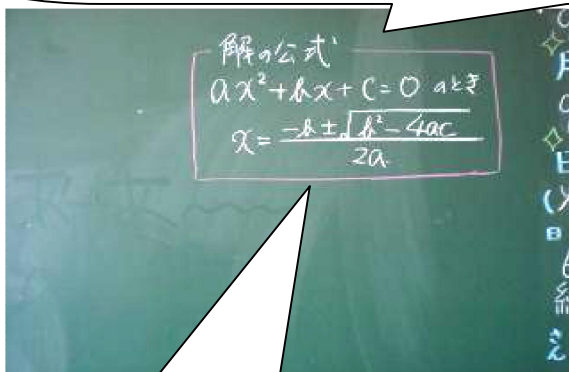


「三角形や四角形の大切なポイントが、常に掲示物されているのですぐに確認できて、助かるな。」



(小学校)

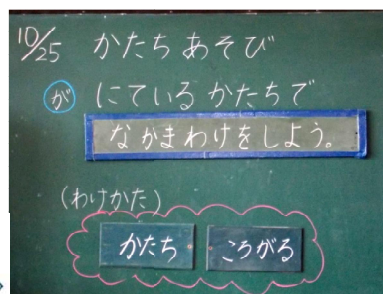
「いつも重要事項は、黒板のこの位置に書かれています。」



(中学校)

「黒板の公式を見ながら問題を解いているうちに公式を覚えられるようになったよ。」

「公式を使えば簡単に解けたよ。」



「間違った分け方をした時にも、黒板で確認すれば、何に注目して分けるのかわかって、直せるね。」

(小学校・中学校の例)

視点1 『情報提示』

(3)理解を促す

(I)操作する活動や動きのある活動を取り入れるなどで、思考を深めやすくする

【学級の様子】

- ・説明だけでは十分理解できないことが全体的に見られる
- ・授業に集中できない子どもが多い

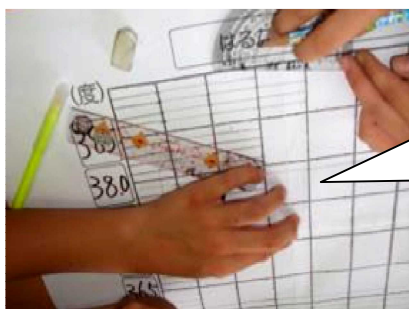


【工夫のポイント】

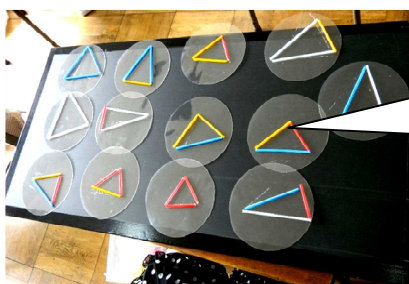


◎関心をもたせる教材の工夫

- *学習問題は子どもの身近なものを題材にする
- *操作的活動を取り入れ、集中させたり、思考力を深めたりする



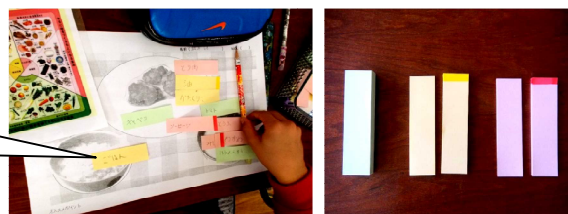
「体温の変化を折れ線グラフにしてみると、数字で比べるよりわかりやすいね。」
「目盛りの読み方も、表を書いてみるとよく分かるよ。」



「同じ長さの辺が同じ色のストローだから調べやすい!」
「透明シートの台紙だから、回転したり裏返して重ねたりしていろいろと調べられるよ。」



指導案 (P52)



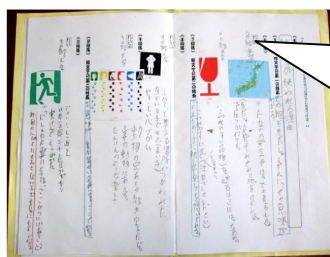
「栄養素を付箋で色別に分けると、全体のバランスがよくわかるよ。」



指導案 (P53)



教科書



ワークシート

「教科書と同じ絵の記号をプリントから切り取り、ワークシートに貼ることで、段落ごとのつながりがわかりやすくなったよ。」



(小学校の例)

視点1 『情報提示』

(3)理解を促す

(I)操作する活動や動きのある活動を取り入れるなどで、思考を深めやすくする

【学級の様子】

・数や計算の意味を理解できていない子どもがいる



【工夫のポイント】

◎興味のある物や模型を活用し、操作を取り入れた学習

- * 割算の意味を理解できるように、生徒の好きなケーキの模型を使う
- * 割算の計算方法を操作しながら学ぶ
- * 子どもが楽しんで取り組めるように、さいころを使って数の学習を行う



「わあ、おいしそうなケーキだ。
8個もあるよ。」



「8個のケーキを2人で分けると、
1人何個かな？」(8÷2)



「順番でやるんだよ。」
「友だちがやっている時は、
座って見てるよ。」



- ①さいころを投げます。
 - ②出た目の数のかごから、積木をとります。
 - ③積木を積み上げます。
- * 順番で行うことで、タワーの完成を期待し、取り組むことができます。



「8個のケーキを4人で分けると、
(8÷4)だね。
一人2個食べられるんだ！」



「6の目がでたら、6のかごから積木をとるよ」

(中学部)

(小学部)

(特別支援学校の例)